

平成27年6月10日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会産業厚生常任委員会
委員長 奥 秋 康 子

所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1 調査事項 観光資源再生について

2 調査期日 平成27年5月13日

3 調査の結果

町の様々な魅力を発掘し、道内外から道東・十勝へ訪れる観光者への玄関口として位置する清水町の観光資源の再生とともに、町内外の情報発信拠点の整備に向けて策定された観光資源再生基本ビジョンについて、担当課から説明を受けた。

これまで清水町は、優れた景勝地やご当地グルメ、人気の高い飲食店など魅力ある観光資源を多く有しながら、町内での連携が乏しく「点」にとどまっていた地域資源を「面」として地域一丸となって展開し、更に魅力ある清水町をつくり上げることで、地域経済や地域社会の発展を図ることを目的とした「清水町観光資源再生基本ビジョン」が策定された。

ビジョンの目標は、「町内の交流人口と元気な町民の増加」となっており、目標実現のための指標として増加を目指すものは、観光入込客数や観光消費額などのほか、観光に関連したプロジェクト数、地域資源を活かした特産品やメニューの数、清水町へのファン人数などの数値的目標を掲げるほか、観光客をおもてなしする町内の機運や町民の郷土愛の醸成などに取り組んでいくとしている。

ビジョンでは、「十勝の玄関口として気の利くおもてなし」をコンセプトのタイトルとして、町民も一人の顧客として参加でき、観光客と一体となって地域内外の交流を進め、コミュニティの活性化につなげるものとしている。

清水町には、2つの主要国道のほかに、道央と道東を結ぶ道東自動車道の玄関口としての役割を持つ十勝清水インターチェンジがある。鉄道においては札幌と釧根地区を結ぶ根室本線が通り、特急列車が停車する駅も備えている。また、とちち帯広空港や新千歳空港へのアクセスもそれぞれ高速道路のインターチェンジと直結している町でもあり、道東においては最も交通の利便性が高い町となっている。

清水町は日高山脈襟裳国定公園を背景に豊かな「自然」が広がっており、基幹産業である「農業」は、十勝川からもたらされた肥沃な大地から、たくさんの恵みの食物が産出され、それを活かす「食の文化」がとても豊かであり、多くの道外者が頭に思い描くイメージどおりの北海道であると考えられるが、観光客が気軽に楽しめるアウトドアポイントなど、自然の環境資源を活かした観光に乏しく、情報の発信についての課題を抱えており、十分な集客につながないのが現状である。その他にも、有力な観光資源が乏しく少子高齢化の進展に伴って、観光を支える下地となるコミュニティが疲弊する懸念などの課題がある。

平成 25 年度に実施した「清水町観光資源再生基本構想」策定においては、情報発信拠点が必要という回答が多くあり、地域によっては「道の駅」がその地域の産品販売や、住民や観光客の交流、観光情報の案内を担う情報発信拠点として機能するケースも多くなっ

ている。清水町においても、情報発信拠点の整備と効果的な運用により、ビジョンで掲げた目標達成に大きく貢献するものと考えられる。しかし、情報発信拠点の整備にあたっては、多額の初期投資がかかること、施設に求められる機能や設置場所、運営方法など具体的な計画が未整備であり、拠点の整備に向けた検討は十分時間をかける必要がある。情報発信拠点は、今後の町の観光を支える重要な機能と役割を担うことから、できるだけ早い段階での検討が必要であり、第一段階（前期計画）の清水公園や商業施設などを活用した直売所やイベントなどを試行的に行うことにより、利用者や観光者のニーズを収集して、最適と思われる設置場所等を検討するとしている。

第二段階（後期計画）では第一段階の検証を踏まえて資金計画や管理運営計画などの検討のほかに「道の駅」の設置も視野に入れることにしている。

委員会では、固定した発想にとらわれず町内の団体が協力し合い、広く町民からの意見を取り入れて、交通の要所としての利点を活かした方法を今後も検討して欲しいなどの意見が出された。

具体的には清水を通過する時には必ず寄りたくなるようなトイレの設置や、人材育成を目的とした四季塾の中でも多くの町づくりに対しての意見や構想も出されていることから、これらの意見も十分検討すべきとの意見も出されている。

この構想は第一段階で穏やかなスタートを切り、清水公園を中心に既存の施設から輪を広げていこうとしている。前述したとおり交通利便性を最大限活かした方法を取りながら、多くの町民から支持される実効性の高いビジョンとされることを期待したい。